

平成30年新年祝賀会

1月19日(金)、KKRホテル東京において日漢協新年祝賀会が開催された。政界、日本医師会、日本東洋医学会、日薬連、厚労省、農水省、PMDAなどから121名、報道関係者が16名参加した。

最初に、加藤照和会長が壇上に立ち主催者を代表して挨拶を行った。まず、昨年は『国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会』の提言書発表と、それを踏まえた日漢協の『中長期事業計画2017(5カ年計画)』策定という「極めて大きな変革の年であった」と2017年を振り返った。

提言書発表後12月に開催された研究会では、がん支持療法や高齢者医療に対する新たな展開や研究の報告、漢方製剤の剤形追加承認申請ガイドラインの策定スケジュール提示、ビッグデータ解析による医療費減少に対する漢方治療の高評価など、一歩も二歩も進展した状況に対する感謝の意を示し、今後の活動への熱意を語った。

また、重要課題である「国内栽培の推進」と「漢方製剤等の基礎的医薬品への適用」を取り上げ、進捗状況説明と当協会として課題解決に向けスピード感をもって取り組んでいくことを力強く述べた。

最後に、これらの活動を通じて国民医療の貢献へとつなげていけるよう、関係者の理解と支援を仰ぎ挨拶を結んだ。



【加藤照和 会長】

[【挨拶全文】](#)



【加藤勝信 厚労大臣】

来賓挨拶として厚生労働大臣の加藤勝信先生は「超高齢社会を迎えた我が国で、健康寿命の延伸などにおいて漢方医学の果たしうる役割は大きく、今後ますます需要が高まっていく」と述べた。そして、昨年10月に改訂した「医薬品産業強化総合戦略」の内容を紹介し、厚労省として薬用植物の国内生産、国内栽培の推進に向けた取り組みの推進や、薬用植物の栽培技術に関する研究支援を行うことを示唆した。「漢方製剤に係わる課題の解決に産学官が連携して取り組むことにより、漢方製剤等の安定的な供給が医療現場での漢方の有効利用につながり、国民健康増進に寄与するものと考えている」と期待を込めて語った。

続いて、参議院議員の武見敬三先生が登壇し、「10年前に比べ、政府が漢方薬に係わる政策を真剣に考えるようになった。これは一つの大きな進歩である」と述べた。「今後もまだまだ解決しなければならないことがたくさんあり、国民の生活に最も密着した伝統的な薬剤治療であるこの分野を、これからも末永く育てていく必要がある」と話した。「今後も何かお役に立つことがあれば喜んで協力させていただく」と漢方製剤等の発展を期する言葉で結んだ。



【武見敬三 先生】



【今村定臣 先生】

日本医師会常任理事の今村定臣先生が、会長の横倉義武先生の祝辞を紹介した。

「医療費削減のために漢方薬などを保険適用から外すべきという議論に対して、『国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会2017』の取り組みが我が国の医療における漢方の重要性を表明できるものとなる。日本医師会としては、治療が必要な患者さんに対して、漢方が医療保険の中で処方されていくよう、引き続き国に強く働きかけていく」と心強い言葉で、当協会を激励した。

日本東洋医学会会長の佐藤弘先生は、今年公表されるWHOのICD11に、ICD史上初めて伝統医学が導入されることになったことについて、「伝統医学の世界にとって画期的な出来事である」と絶賛した。また、現在学会の最大の関心事として医療用漢方製剤の健康保険上の扱いをあげ、フレイルやがん領域において国が漢方治療を一つの施策として取り上げたことを説明した。さらに、日本医師会から平成30年度の予算概算要求に医療用漢方製剤のエビデンスの追及、漢方製剤の安定供給の支援を要望したことなどを紹介し、国の内外で漢方・伝統医学に対する認知と期待が高まっている現状を話した。最後に、医療用漢方製剤の給付が制限されないよう関係者への協力を呼びかけた。



【佐藤弘 会長】



【石井甲一 先生】

日本薬剤師会の石井甲一副会長は、
会長の山本信夫先生の祝辞を紹介した。

『国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会2017』を受けた
提言書について

「漢方製剤への期待などといった夢のある取り組みが提言されており、
我が国における健康寿命の延伸における貢献が期待される。
診療報酬改定および薬価改定など
薬業界にとって厳しい環境が継続することが予想されるが、
提言書の内容を早期に実現すべく、
“国民の健康と医療を担う”という大きな目的に向けて、
会員の皆様が突き進んでいくよう期待しております」とエールをおくった。

日本製薬団体連合会の木村政之理事長は、
『国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会2017』の提言書に基づいた
日漢協中長期5カ年計画作成について
「非常に画期的な取り組みだった。
前向きな取り組みを行う業界団体の最たるものがこの日漢協であり、
非常に良い刺激となる」と評価した。
また、薬価改定のたびに問題となる保険給付除外の議論が、
今回はあまり取り上げられなかったことに安堵の感想を述べた。
日薬連として「現実には何をやったらいいのか、
スピード感を持って考えていかなければいけない。
政府の応援を得ながら、
業界が発展することを目指し頑張っていきたい」と新年の抱負を述べた。



【木村政之 理事長】



【吉川英樹 副会長】

日漢協の吉川英樹副会長は、当協会の重要課題である原料生薬の安定確保、品質の確保という共通課題について「今後もご来賓の皆様のご指導、会員各位のご協力をいただきながら、迅速かつ的確な判断のもと、一丸となって着実に5カ年計画を進めていく」と力強く述べ、乾杯の発声を務めた。



和やかに歓談が進み、クラシエ薬品株式会社の中嶋洋一副社長が壇上に立ち「昨年の酉年は“商売繁盛”そして“収穫の時”と言われたように『国民健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会2017』や中長期5カ年計画のスタートの年となった。今年が成年、ワンダフルな年になるように進めていかなければいけない。6つの提言を徹底して推進し、国民の皆様には漢方薬の必要性をもっともっと示していかなければならない」とユーモアも交えながら、中締め挨拶を行った。



【中嶋洋一様】

日漢協新年祝賀会は年々参加者が増え、2018年の業界の発展を祈念しながら、盛況のうちに閉会となった。